

20分で一つの文法事項を教える提案

第59回関西スペイン語教授法ワークショップ(TADESKA)

担当：柿原武史（南山大学）

2012年5月12日（土） 17:00～19:00

（於：関西学院大学梅田キャンパス(ハブスクエア) 1401教室）

1. はじめに

授業の進度が遅くなり、目標の項目まで進めないという経験をした教員も多いのではないだろうか。授業時間は90分と決まっているため、それを増やすことはできない。だとすると、授業時間を有効利用するしかない。今回は、必要な文法事項を限られた時間で教えるための工夫の一つとして、一つの項目を20分で教えられるようにユニット化し、ユニットを組み合わせることで授業を完成させていくという考え方を提案したい。今後のTADESKAで様々な文法事項をユニット化していく作業ができればと考えている。

2. この提案を思いつくに至った経緯

- ・文法項目、教科書の「課」による時間配分の「ばらつき」 →規則動詞は速いのに、前置詞で時間が・・・。
- ・共通テキスト、テストによる進度調整の難しさ →そこまで進めと言われても・・・。
- ・ペア授業の増加 →結局、連携はあまりとれていない？
- ・学生の反応に左右され、計画通り進まない →「柔軟な対応」もほどほどに。
- ・TADESKAの活動に一貫性を →蓄積と参加者による再利用の必要性
- ・「模擬授業」対策にも

3. 20分で何をどう教えるのか

- ・従来の文法項目でいいのか →複数組み合わせや、分割もあり。
- ・やはり「文法」かも →「文法」でも違った切り口
- ・練習、作文、会話、アクティビティーも1ユニット（20分）に。

4. なぜ20分なのか

- ・飽きない、疲れない長さ →集中力が持続する限界
- ・毎回ポイントは3つ（4つ）と明確に →授業の全体像が見えていることの安心感。
- ・少し遅れて30分になってもOK。 →基準時間が決まっていれば、遅れがどの程度なのかも見える。
- ・プラス10分で練習、復習、アクティビティー →（20分+10分）×3 or 20分×3+30分=90分

5. 今日の活動 ～各セメスターでどの文法事項を教えるべきか～

- ・serとestarの説明の場合（模擬授業を実践）
- ・どんな項目が20分で教えられそうか。教えられたら良いか。（列挙してみましょう！）

3グループに分かれて議論（30分程度）

グループ①

◎20分で教えられそうな項目、がんばればできそうな項目、または提案

- ・過去未来（←未来の続きで）説明も
- ・現在進行（現在分詞から入って）
- ・主格人称代名詞とser動詞
- ・時刻の表現
- ・目的格人称代名詞、gustar（要練習）（se loをする前に切る）
- ・再帰動詞
- ・指示詞、所有詞（前置形）...練習に時間がかかる
- ・アルファベット（注意すべき読み方のみ：早く終わらせたい）単語は発音、聞くだけ→いずれ慣れていく。CD3回、発音
- ・点過去の活用（不規則）板書に時間がかかる
- ・再帰動詞 不定人称（再帰と分けた方がいい：教えにくい）
- ・復習用の時間として20分儲ける（例：再帰動詞の前に語幹母音変化動詞の復習など）
（予習の前のときに復習ポイントのページを言ってあげられるといい）
- ・時刻や曜日、月も動詞と同じくらいの重要度で教えるか
- ・活用：よく使うものから重点的に教え、20分以下にする

◎グループ2

- ・アルファベット 特に子音
- ・文節とアクセント
- ・活用形→用法 という教え方でいいのか？
- ・時制・法によって、所要時間が大きく変わる（例：接続法の名詞説は時間かかるが、後は楽）
- ・tenerの用法（tener + の各種表現？）
- ・me, te, le...
- ・me, te, lo...
- ・gustar
- ・再帰動詞は、まず再起用法のみ →比較的理解しやすい
- ・再帰動詞の他の用法 2回ぐらい時間をかける
- ・会話の授業は、最初の方ですることがないため、数詞を覚えさせる。
- ・会話の授業 つづいて、教室で使える表現などを列挙、練習させる。
- ・冠詞
- ・歌の聞き取り（冠詞などだけに注目して）
- ・主語とser
- ・数字と挨拶は繰り返し取り上げる（授業冒頭など？）
- ・練習問題だけで20～30分
- ・estarはhayとの関連での用法説明、serとの関連での用法説明 それぞれ20分
- ・ar動詞
- ・er, ir動詞
- ・スペインのテキスト...動詞の活用は、単数だけ、複数だけという場合もある。
- ・不規則活用動詞の規則的仲たちの活用形だけが出てくるテキストもある。これらを先に提示する。

- ・疑問詞のみをまとめて。→会話で使える。
- ・時間の表現
- ・¿A qué hora...? は一般動詞が出てきたときに適宜（これらは混乱する学生がいるので注意）
- ・perífrasis（ir a..., tener que..., poder）をまとめて定着をはかる
- ・指示詞
- ・所有詞（ワンクッション於いてから）所有詞後置形
- ・比較級（más... que..., menos... que...など規則的なもののみ）
- ・比較級（不規則な形のもの）
- ・最上級
- ・関係詞はいくつかに分けて説明する必要あり

◎グループ3

・

6. おわりに ～今後の活動への提案～

- ・次回以降、時々、担当者が「20分で教える〇〇」シリーズをやってみる。（教材作成、模擬授業）
- ・ユニットの組み合わせで1 Semester、2 Semester、4 Semester分の授業計画を作成したい。
- ・ネットで蓄積→最終的には1冊のテキストを作成したい。

考えられる制限事項と課題など

- ・全15回の授業
- ・教科書：通常3開き（6ページ）で1課構成だが、これは妥当か？
 （2開き半：『プラサ・マヨールI』、
 3開き：村上・中川他『スペイン語の世界へようこそ』（平均4項目）、和佐敦子『初級スペイン語文法』（2～6項目）、木村・泉水他『コンティエーゴ1』（1ユニット内に4 lecciones＝項目））
- ・各課に3項目（20分×3＝60分＋30分の余裕）で45項目→取捨選択が必要。
 従来の「項目」との決別も必要？

第2部 動詞活用提示ソフトの紹介

科研費プロジェクト

「データベースソフトを活用した初習外国語授業における教材提示の円滑化と授業の活性化」
 スペイン語動詞変化提示プログラムの改善と使用感、学生アンケートなど...。
 少しでも利用者（協力者）が増えてくれれば...

DropBoxからダウンロードして使用してみてください。（メールかTADESKAウェブで公表します。）

http://dl.dropbox.com/u/14905265/temp/v_tools/spanish_mac.zip (Mac用ツール)

http://dl.dropbox.com/u/14905265/temp/v_tools/spanish_win.zip (Windows用ツール)

直接法現在のリスト：<http://goo.gl/V1tND>

直接法線過去のリスト：<http://goo.gl/vekZt>

直接法点過去のリスト：<http://goo.gl/THV4Q>